

1. 科目名 (単位数)	衛生学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2311
2. 授業担当教員	山本 静雄、神宮 直人		
4. 授業形態	講義を中心に、演習、実習等を導入する。	5. 開講学期	春期 (伊勢崎) 秋期 (池袋)
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は求めない。病原微生物学、免疫学概論、薬理学、人間環境学入門等の関連科目を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	健康問題に関する衛生学及び公衆衛生学諸領域の基礎的事項について理解するとともに、それらが健康に如何なる影響を及ぼすかを考え、併せて、子供のときからよい環境衛生条件を維持することが重要であることを認識することを主なねらいとして、人間生活における身近な問題としての環境衛生を理解する。 よりよく「生きること」を「衛(護衛する)学問」衛生学は、①生きるための資源、②生きる場(生活の場)、③生きる様式(生活習慣)が、人間の存続、生活生存に影響することに視点を当てている。空気・水・光・土壌・植生・食品、住居・被服・学校・職場等の環境衛生学を核にして、人間生態系にまで視点を広げ、学校教育や就学前教育を支える保育士・養護教諭・保健科教師の専門性の基礎基盤を修得することを目的とする。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間の生きる力は、環境との相互作用の中で培われていくことを、環境適応能力の発達の視点から理解し、応用することが出来る。 2 環境の捉え方を包括することが出来る。 3 衛生学の目的とその意義、歴史的変遷と現代的課題について理解する。 4 空気、水、光、温熱・気象、食品、土壌、衛生害虫等、人の生活生存に関わる環境の要因を理解し、各種環境基準について実測する。 5 学校衛生、産業衛生、住居衛生等、生存の場の各種衛生学の具体的内容・基準・法律等の理解とその体系を構築する。 6 人間一環境系(主体環境系)について理解し、日常生活に活かすことが出来る。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の理解度を確認するために、適宜小テストを行う。 2. 事前学習では該当する項目を読んで概要を把握することに努める。 3. 事後学習では授業でとり上げた項目の中でとくに重要な2~3の項目について簡潔にまとめる。その項目を指示することもある。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 辻 一郎 監修 『シンプル 衛生公衆衛生学 2026』 南江堂 2026。 【参考書】 安藤雄一ら監修 『公衆衛生がみえる 2025~2026』 メデックメディア 2025。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1 人間の生きる力は環境との相互作用の中で培われていくことを、環境適応能力の発達の視点から理解できるか。 2 環境の捉え方を理解できるか。 3 衛生学の目的とその意義、歴史的変遷と現代的課題について理解できるか。 4 空気、水、光、温熱・気象、食品、土壌、衛生害虫等、人の生活生存に関わる環境の要因を理解し、各種環境基準について実測できるか。 5 学校衛生、産業衛生、住居衛生等、生存の場の各種衛生学の具体的内容・基準・法律等を理解できるか。 6 人間一環境系(主体環境系)について理解し、日常生活に活かすことができるか。 ○評定の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・アサインメント 30%、 ・レポート 30%、 ・授業態度(質疑応答、授業後の学習達成振り返り調査) 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	授業中の私語とスマートフォン等の使用は禁止する。最高学府の学生に相応しい主体的な学習態度で講義に取り組み、講義内容の把握に努めてほしい。 近年、人間を取り巻く環境とそれに起因する健康障害は深刻さを増しつつある。新聞、雑誌やテレビなどのマスメディアの情報にも留意し、新たな地球規模の環境変化や健康障害、とくに感染症の発生状況などの把握とそれらに対する科学的な対応策を考える態度を養って欲しい。 成績評価は実施する授業形態に応じて以下の通りに行います。 A) 対面授業を実施した場合の成績評価は、上記 11. の評定の方法に従って行います。ただし、アサインメントとレポートは、60%の範囲内でテストに置き換えることがあります。 B) オンライン授業を実施した場合の成績評価は、授業態度(出席、カメラ・オンの履行、事前・事後学習、音読、質疑応答など)を40%、課題レポート(小テスト)、アサインメントなどを60%で判定します。 C) 上記 A) と B) の両方で授業を実施した場合の成績評価は、おおむね実施した授業形態の割合に基づいて両方の評価基準を適用して評価します。		
13. オフィスアワー	授業の前後の時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	1. 衛生学・公衆衛生学序論 衛生学と公衆衛生学、健康の定義、日本の衛生学・公衆衛生学、生命倫理、インフォームド・コンセント、患者の権利、脳死と臓器移植、終末期医療	事前学習	教科書 pp.1~17 の中の該当箇所(項目)を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	衛生学と公衆衛生学の共通した目的、日本における「衛生学」誕生の背景、衛生学と公衆衛生学のわずかな相違点などを説明できるようになる。

第2回	2.保健統計 健康指標：罹患率、有病率、乳児死亡率、平均余命と平均寿命、人口統計など	事前学習	教科書 pp.19~31 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	倫理、脳死、終末期医療などについて説明できるようになる。
第3回	3.疫学, 疫学とは、疫学指標：有病率、累積罹患率、罹患率、死亡率、致命率など	事前学習	教科書 pp.33~53 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	主要な統計資料のもつ意味を理解し、説明できるようになる。
第4回	4.疾病予防と健康管理 健康管理、健診と検診、健康増進：ライフスタイルとその改善、栄養と食事、食生活、公衆栄養、食育基本法、食事バランスガイド、栄養と食事の専門職、身体活動・運動、休養、適正飲酒、喫煙と健康、生活習慣病など	事前学習	教科書 pp.55~83 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	有病率、罹患率、死亡率、致命率、感染症、感染様式、新興・再興感染症、感染症法、健康管理、栄養と食事、生活習慣病などについて説明できるようになる。
第5回	5.主な疾病の予防（1）感染症—1 微生物と病原体、感染症とは、感染成立の3要因、潜伏期間と発症指数、不顕性感染、日和見感染、新興感染症と再興感染症、感染症法、学校保健安全法、病院内感染（院内感染；現在は医療関連感染という）と市中感染、輸入感染症など	事前学習	教科書 pp.161-163 および pp.85-93 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	感染症の基本とそれらの感染予防法について説明できるようになる。
第6回	6. 主な疾病の予防（2）感染症—2 予防接種（ワクチン）の推進、感染症の紹介：結核、HIV 感染症、新型インフルエンザ、ウイルス性肝炎、性感染症 STD、麻疹、風疹、新型コロナウイルス感染症、媒介動物による感染症など	事前学習	教科書 pp.92-97、pp.165-169 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	主な感染症とそれらの感染予防法について説明できるようになる。 日和見感染症、医療関連感染、輸入感染症、予防接種などについて説明できるようになる。
第7回	7.主な疾患の予防（3）感染症—3 食中毒（資料も使用）、食中毒統計、食中毒の分類、(1)細菌性食中毒 ①感染型食中毒、②毒素型食中毒、(2)ウイルス性食中毒など	事前学習	資料と教科書 pp.187-189 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	原因別の食中毒とそれらの予防法を説明できるようになる。
第8回	8.主な疾患の予防（4）感染症—3 (3)自然毒食中毒、(4)化学性食中毒、(5)寄生虫による食中毒、発生状況：年次別、月別、病因物質別発生状況など 9. 主な疾患の予防（5）非感染性疾患 がんの予防、アレルギー疾患の予防など	事前学習	教科書 pp.189、pp.118-127 および pp.129-131 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	生活習慣病とその予防について説明できるようになる。
第9回	9. 環境保健—1 人間の身近な環境とは、地球生態系、環境の認知、物理的環境要因：暑熱や寒冷の健康影響、騒音、放射線・紫外線、気圧の健康影響など、化学的環境要因：毒性と毒性試験、生物学的環境要因：人類と微生物、微生物の定義と病原微生物など	事前学習	教科書 pp.138-163 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	身近な環境とそれらの異常に起因する健康障害との関係について理解でき、説明できるようになる。
第10回	10. 環境保健—2 空気の衛生と大気汚染：体温調節に及ぼす空気の影響、気候、空気の成分；正常成分と汚染成分、水の衛生と水質汚濁：水と健康、上水、下水、水質汚濁による健康障害など	事前学習	教科書 pp.170 - 179 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	空気と水に起因する健康障害の概要について説明できるようになる。
第11回	11. 環境保健—3 廃棄物：一般廃棄物の処理、し尿の処理、産業廃棄物の処理；マイクロプラスチックによる海洋汚染；衣食住の衛生、シックハウス症候群；公害と環境問題：公害の概念、地球規模の環境問題：地球温暖化、酸性雨、越境大気汚染、海洋汚染；最近の環境問題：ディ-ゼル廃棄粒子、ダイオキシン類、内分泌かく乱物質、石綿（アスベスト）、PFAS など	事前学習	教科書 pp.179-201 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	環境汚染の実状とそれらによる生体への健康影響について説明できるようになる。
第12回	12. 学校保健 学校保健とは、学校保健の意味、子どもの健康状況、学校保健管理：養護教諭とスクールカウンセラーの役割、歯科保健など。学校環境管理：学校環境管理とは、学校環境衛生基準、学校環境管理のための検査項目など。学校保健教育：保健関連する教科教育、授業、総合的な学習の時間、保健指導、学校における健康づくりなど	事前学習	教科書 pp.247-273 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	学校保健の概要とその必要性、子どもの疾患を予防する方法とその重要性について説明できるようになる。

第13回	13. 産業保健 産業保健の目的、働く人々の健康、労働基準法、労働安全衛生法、労働災害・事故、労災保険、職業病、物理的および化学的環境因子と健康障害、安全衛生対策：労働衛生の3管理、職場における健康診断と健康増進、勤労者の労働時間と余暇、ハラスメント防止など	事前学習	教科書 pp.275-301 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	産業保健の概要と勤労者の健康維持、更にハラスメントとその防止について説明できるようになる。
第14回	14. 母子保健 母子保健：出生に関する指標、死産、死亡に関する指標、発育に関する指標、授乳の状況、母子保健の課題：少子化、児童虐待、発達障害、低出生体重児、メンタルヘルス、子どもの貧困、健康格差、子ども（幼児）の事故など、新生児マス・スクリーニング検査	事前学習	教科書 pp.232-246 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	母児保健事業とその必要性、予防接種の意義について説明できるようになる。
第15回	15. 高齢者の保健・医療・介護 老化とは、高齢者の生活と健康、高齢者の保健と医療、認知症と対策、介護保険など 医療従事者の資格と資格法など 総括と質疑応答	事前学習	教科書 pp.303-319 および pp.362-365 の中の該当箇所を読んで概要を把握しておく。
		事後学習	高齢者の保健・医療・介護、医療従事者の資格について要点を説明できるようになる。